

見まもっててくれてありがとう

吉武 美織

夏休みに入ったところから、そとにたくさんの赤トンボを見る
ことがふえました。ふしぎに思ったのでおかあさんにたずねて
みました。

「さいきん、たくさんの赤トンボいるね。」
とたずねるとおかあさんがこういいました。

「もうすぐ、おぼんという日がくるんだよ。おほしさまになった
ひいじいちゃんやひいばあちゃん、そしてあなたのお兄ちゃんが
赤トンボになっておうちにかえってくるんだよ。」
と教えてくれました。

わたしは、おかあさんのいったことにとでもビックリしまし
た。それは、わたしにお兄ちゃんがいたことです。わたし
は、きょうだいがいなくて一人っ子だと思っていたので、くわしく
おかあさんに聞いてみました。

「わたし、お兄ちゃんがいたの？」
と聞くよ。

「そうだよ。おかあさんのおなかにいるときに五カ月の小さな
いのちだったけどおほしさまになったんだよ。」

「お兄ちゃんに会ってみたかったな。」
と

「会うことは出きないけど、お兄ちゃんはい、いつもどんなときも
みおを見ていてがんばれていつてるよ。だからお兄ちゃんの
分まで、おべんきょうやうんどろをがんばらないとね。」
とおかあさんがいいました。こんなことを教えてもらったわた
しは、なんだかどんとん、どんとんとパワーが出てきたような気
がしました。

八月に入つておぼんの日がきました。いつもいじように、いえ
のまわりに赤トンボがいるようでした。かぞく三人で、
「おかえりなさい。」

「お兄ちゃん、わたしお兄ちゃん分までがんばるからね。」
と心にねがいました。

この夏休みは、とても大きなことを教えてもらったような気
がしました。わたしは、これからのお兄ちゃんとのやくそくを
きめました。まず一つ、いのちを大じに生かすこと、もう一つ、
お兄ちゃんの分までがんばることです。お兄ちゃんには会えな
いけど、

「いつも見まもっててくれてありがとう。」

とつたえたいです。これからもずっと見まもってください
ね。お兄ちゃん大好きだよ。わたしは、がんばっていきますね。